

Marshall



1959 MODIFIED

QUICK START GUIDE

警告！安全上の注意

ご使用前にこの取り扱い説経書をよくお読みください。すべての注意書に従い、警告を守ってください。

警告：

電源は必ず交流 100V を使用してください。商品に対するご質問はご購入店にご相談下さい。

電漏入力とヒューズ：

アンプの定格電圧はリアパネルに記載されています。

付属の電源コードをアンプ裏面の MAINS INPUT に接続してください

ヒューズの定格はリアパネルに記載されています。**絶対に**ヒューズ回路を遮断したり、定格以外のヒューズを使用しないでください。

重要なセットアップ情報：

1. 外部のスピーカーキャビネットと組み合わせて使用する場合は、正しいインピーダンスのスピーカーキャビネットが接続されていることを確認してください。詳細についてはリアパネル機能の LOUDSPEAKERS の説明を参照してください。

警告：正しく接続を行わないとアンプ及び、接続機器の故障原因になります。スピーカーキャビネットの接続には専用のケーブルをご使用ください。スピーカーキャビネットの接続にギター用のシールドケーブルは絶対に使わないでください。

2. POWER スイッチと STANDBY スイッチがOFFの位置になっていることを確認してください。

3. 最初に電源コードを MAINS INPUT に接続し、次にコンセントに接続します。

4. フロントパネルのコントロールが全てゼロになっていることを確認してください。

5. ギターをフロントパネルの INPUT に接続してください。

6. POWER スイッチをオンに切り替え、数分待ってから背面パネルの OUTPUT LEVEL で出力を選択します。

7. STANDBY スイッチをオンにします。

8. 音量をお好みの程度まで上げれば演奏可能な状態になります。

アンプを持ち運ぶ際のご注意：

機器の電源を切った上、電源ケーブルやすべての接続ケーブルを外し移動/運搬を行ってください。

弊社のサービス、製品の改善と向上のため、事前の予告なしに製品仕様を変更する場合があります。

規格

Marshall 1959 は、史上最も象徴的なギターアンプの1つであり、今日私たちが知るエレキギターの音を形成する上で大きな役割を果たしました。1970年代以降、ギタリストたちはより幅広い汎用性を実現するために '59 を改造し始めました。より一般的な改造に着想を得て、1959 MODIFIED ではこれらの変更が組み込まれ、伝説的な標準モデルにこれまで以上の幅広い対応力を持たせました。

1959 MODIFIED

出力	100 ワット
真空管	2 x ECC83、1 x ECC83 (フェイズスプリッター)、4 x EL34
チャンネル	2 (共有EQコントロール付き)
イコライザー	Treble, Middle, Bass, Presence
アウトプット	スピーカ出力用1/4ジャック-2個、16Ω / 8Ω / 4Ωインピーダンスが選択可能
エフェクトループ	なし
重量	20 kg
幅	740 mm
高さ	305 mm
奥行き	210 mm

付属品： 電源コード、スピーカーケーブル、アンプカバー、クイックスタートガイドQRコード、保証書、安全上の注意

製品の取扱に関するお問い合わせ先

お客様コミュニケーションセンター ギター・ドラムご相談窓口

営業時間：月～金曜日 10：00～17：00（土/日曜日・センター指定日除く）

TEL:0570-056-808（ナビダイヤル）または 053-533-5003

URL：https://jp.yamaha.com/support/

※都合により、電話番号、名称、営業時間など変更になる場合がございます。

輸入販売元

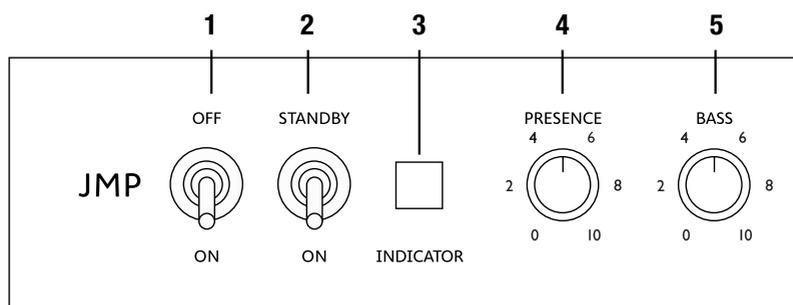
株式会社ヤマハミュージックジャパン LM 事業戦略部

〒220-0012

横浜市西区みなとみらい 5 丁目 1 番 2 号

横浜シンフォステージウエストタワー

フロントパネル



1. 電源スイッチ

アンプ電源のON/OFF スイッチです。

2. スタンバイ

このスイッチは使用前に1の電源スイッチと併用して使用します。電源スイッチをオンにして数分アンプが温まるのを待ってからSTANDBY をオンに切り替えてください。スタンバイモードは、休憩中に真空管の負担を軽減するためのミュート機能としても使用します。

3. インジケータ

アンプの主電源がオンになると、電源インジケータが点灯します。

4. PRESENCE

パワーアンプ部でサウンド全体の超高周波帯域を調整します。

5. BASS

低域の出力を調整し、サウンドに深みと肩高みを加えます。

6. MIDDLE

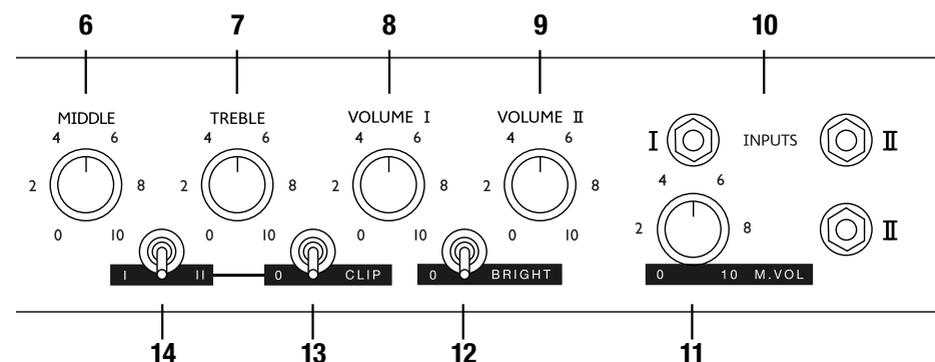
中高域の出力を調整し、サウンドに厚みを加えます。

7. TREBLE

ア高音域の出力を調整し、サウンドに明るさと切れ味をくわえます。

8. HIGH TREBLE-VOLUME I

チャンネル1の出力レベルを調整します。このチャンネルは、チャンネル2よりも高音域のレスポンスが強調されるように設計されています。



9. NORMAL-VOLUME II

チャンネル2の出力レベルを調整します。チャンネル2はチャンネル1よりも暖かく太いトーンが特徴です。

10. 入力

I: HIGH TREBLEチャンネルの入力。

II:(上)NORMAL CHANNELの高感度入力。

II:(下)NORMAL CHANNELの低感度入力。

11. MASTER VOLUME

このノブを時計回り一杯に上げた時が通常の1959と同じボリューム設定となっています。ノブを下げていくに連れ小さな音量で歪み易くなります。

12. BRIGHT SWITCH

Master Volumeを下げた時に体感上1959特有の高域成分が削られたように聞こえる場合があります。その際、このスイッチをONにして高域部分を補充、本来のキャラクターに近づける効果があります。

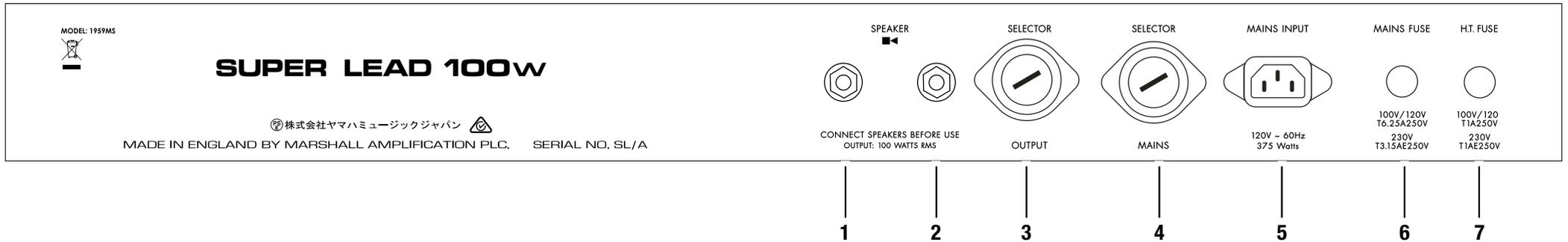
13.CLIP SWITCH

このスイッチをONにするとプリアンプの歪をブーストできます。MASTER VOLUMEの設定が低い時でもディストーションサウンドを得ることができます。

14. CLIP MODE

CLIP SWITCH ONの時、このスイッチでクリッピングの種類を選択できます。左の位置 (I) ではよりオープンでレンジが広い歪みを得られ、右側 (II) のクリッピングではよりタイトでコンプレッションが強い歪みを得られます。

リアパネル



1 & 2. スピーカー出力

1/4インチジャックのスピーカーケーブルを使用して、1台もしくは2台のスピーカーキャビネットに接続します。

警告：

必ずスピーカーキャビネットのインピーダンスを確認し正しい設定でご使用ください。間違った設定ではパワーアンプ部に負担をかけ、真空管または出力トランスの故障の原因となります。また1950MSは必ずスピーカーを接続してご使用ください。

3. 出力インピーダンスセレクター

アンプの出力を使用するスピーカーキャビネットのインピーダンスに合わせてください。セレクターを回す前に、アンプの電源が完全にオフになっていることを確認してください。

一般的なキャビネットの設定は次のとおりです。

- 16Ωのキャビネット1台で使用する場合は、アンプ側のセレクターは16Ωに設定する必要があります。
- 16Ωのキャビネット2台を使用する場合は、セレクターを8Ωに設定する必要があります。
- 8Ωのキャビネット2台を使用する場合は、セレクターを4Ωに設定する必要があります。

警告： これらの指示に従わない場合は、アンプが損傷する恐れがあります。

4. メインセレクター

アンプの電源トランスを入力する電源の電圧と整合させます。アンプを使用する国の電圧に合わせて設定してください。 原電の入力電圧が分からない場合は、ご購入の店にお問い合わせください。 セレクターの設定を変更する前にアンプの電源を完全にオフにしてください。

5. 電源インレット

付属の電源コードをここに接続してください。

6. メインヒューズ

電源ヒューズの定格はアンプのリアパネルに表示されています。

7. 高電圧ヒューズ

高電圧ヒューズの定格はアンプのリアパネルに表示されています。